



Sacco社長

週刊誌・月刊誌のライターを経て、2015年にメディア運営・編集プロダクションのSacco(サッコ)を設立。法人の持続可能な取り組みを紹介するメディアアコキ(コウキ)を運営。公益資本主義推進協議会(PICC)100年企業研究委員会会員。社会的養護の自立支援をする一般社団法人SHOEHORN理事。

加藤 俊氏

窓ガラスの業界でオビニオンリーターと称される会社が模となつている。成長できた東京都豊島区池袋にある。日理理由を3代目の松本浩志現社本板硝子やLIXIL、YK長は、創業期から続く共存共KAPといったメーカーと街栄の精神と語る。どついつこのガラス、サッシの販売店や工務店との間に立ち、卸売業を成り立っている。製品を生をしているマテックスだ。

創業は1928年。この時代はガラス製造が工業化され始めた、いわば国産板硝子製造の黎明(れいめい)期。同社も松本硝子店として創業した翌年に日米板硝子(現日本板硝子)の販売代理店となるが、しばらくは数ある販売店の1社という位置づけだったという。戦後は池袋に進出し、のちにサンシャインシティにガラスを収めるなどして規模を拡大していく。



顧客を交えたイベントを随時開催している

## 自社の知見、業界で共有

代表者 松本浩志  
従業員数 1億260人  
売上高 147億円  
創業年 1928年(昭和33年)  
事業内容 ガラスやサッシの卸売りなど  
所在地 東京都豊島区

### マテックスの概要

代表者	松本浩志
従業員数	1億260人
売上高	147億円
創業年	1928年(昭和33年)
事業内容	ガラスやサッシの卸売りなど
所在地	東京都豊島区

でなかった2006年、メーカーや販売店を集めて勉強会を開催し、販売店の業態転換を支援してきた。自社の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の算出が珍しかった10年からそれを手がけ、現在は講師としてメーカーのサステナビリティ対応や取引先の脱炭素を考える勉強会を主導する。

次代を読むことに向けた同社が創業100周年に向けて掲げるのが、「マテックスキヤンパス構想」だ。関東一円の10の事業所を1つのキャンパスと見立てて、社員だけでなく取引先や地域住民など多様なステークホルダーが交流し合うサイドプレイスとする。今はまだとっぴな発想とされる。今はまだとっぴな発想と思われようが、業界の羅針盤として何度も未来を言い当ててきた同社のこと。今回も未来には当たり前のことを用意しているのだろう。

◇ 「長寿企業の研究」は今回よりPICC会員が交代で執筆します。